

科学技術社会論学会 第7回年次研究大会・総会プログラム

凡例

セッション記号	会場	教室番号
A-○-□	A 会場	B207
B-○-□	B 会場	B208
C-○-□	C 会場	B218
D-○-□	D 会場	A202
E-○-□	E 会場	A212
総会・柿内賢信記念賞研究助成金授与式 記念講演会	口大講	共通教育大講義室
○：1=11月8日／2=11月9日； □：1～4=セッション番号 【GS】= 一般発表セッション 【WS】= ワークショップ		

※ セッションのタイムテーブルは別紙をご覧ください。

第1日 11月8日（土）

【第1セッション】 09:00 – 10:30

A-1-1 【WS】障害や病をもつ当事者による工学系教育の実践

オーガナイザ： 松原洋子（立命館大学）

田坂さつき（立正大学）、葛西成康（湘南工科大学）、眞岩宏司（湘南工科大学）

「工学サービスラーニングにおける当事者の役割」

韓星民（立命館大学/KGS株式会社）、林真理（工学院大学）

「障害を持つ技術者のサイエンスコミュニケーターとしての役割 — 障害を持つ支援技術開発者の工学部での講義経験から」

日高友郎（立命館大学）、久住純司（日本 ALS 協会近畿ブロック）、水月昭道（立命館大学）、堀田義太郎（日本学術振興会特別研究員）、長谷川唯（立命館大学）、山本晋輔（立命館大学）、中田喜一（立命館大学）

「神経難病患者と大学生によるアシスティブ・テクノロジー・ワークショップの実践」

B-1-1 【WS】 Emerging Technology が語られるとき — 言説論的アプローチの展開

オーガナイザ： 山口富子（国際基督教大学）

コメンテータ： 永野智己（独立行政法人 科学技術振興機構研究開発戦略センター）

山口富子（国際基督教大学）

「『語り』に注目するアプローチとは？」

日比野愛子（京都大学）

「Emerging Technology を巡る『語り』の分析手法 — 言説分析・内容分析・テキストマイニングによるクローン報道のイラストレーション」

大庭良介（筑波大学）

「生命科学研究における Emerging Technology の変遷 — 科学計量学からのアプローチ」

C-1-1 【WS】 科学技術コミュニケーションのめざすもの — 科学技術コミュニケーター養成プログラムの蓄積と将来展望

オーガナイザ： 廣野喜幸（東京大学）、藤垣裕子（東京大学）

石村源生（北海道大学）、杉山滋郎（北海道大学）

「科学技術コミュニケーションの持続可能な発展をめざして」

谷川建司（早稲田大学）、中村理（早稲田大学）

「科学技術ジャーナリスト養成プログラムの現在と今後」

廣野喜幸（東京大学）、藤垣裕子（東京大学）

「科学コミュニケーション論の教科書構想」

小林傳司（大阪大学）

「大学院教育の改革とコミュニケーション教育」

D-1-1 【WS】 市民社会の意思決定のための情報は誰がつくるのか

オーガナイザ： 林 衛（富山大学）

石橋克彦（神戸大学名誉教授）

「柏崎刈羽原子力発電所の地震被災に関する新聞報道を巡って」

梶座圭太郎（富山大学）

「原発震災のリスクコミュニケーション — 批判的視点が生まれる条件」

吉澤 剛（NPO 法人市民科学研究室）

「市民社会におけるコミュニケーションの問題と市民科学」

上田昌文（NPO 法人市民科学研究室）

「科学コミュニケーションの形式と内実の乖離—経済産業省の電磁界対策を例に」

【第2セッション】 10:40 – 12:10

A-1-2 【GS】 科学・環境教育と STS

座長： 柴田 清（千葉工業大学）

内山弘美（東京大学）

「環境科学の制度化 — 環境科学会の20年」

岡本正志（京都教育大学）

「英国中等理科教育の改革 — 「GCSE 21世紀科学」に見られるSTS」

藤澤裕佳（東京大学）

「日英の科学教科書比較から考える科学リテラシー」

B-1-2【GS】科学技術ガバナンスⅠ： ナノテクノロジーとガバナンス

座長： 中島秀人（東京工業大学）

宗像慎太郎（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社）

「ナノマテリアルのリスクを巡る動向整理の試み」

佐藤秀美（北海道大学）

「カナダにおけるナノテクノロジーのマネジメントについて — 地域別イニシアチブの可能性」

藤田康元（東京電機大学）

「ナノテクノロジーはどこからきたか？」

C-1-2【GS】科学技術コミュニケーションⅠ： アクターの構成

座長： 柄本三代子（東京国際大学）

山内保典（大阪大学）

「なぜ科学コミュニケーションに参加するのか — 参加動機のインタビュー調査」

川本思心（東京工業大学）

「特定学術・教育組織構成員の科学技術リテラシークラスターの所属傾向」

三河内彰子（コロンビア大学）

「国際宇宙ステーションの文化誌 — 科学・技術の『作り手』と『受け手』を再考する」

D-1-2【GS】科学技術ガバナンスⅡ： ガバナンスの知 part1

座長： 戸田山和久（名古屋大学）

萩原優騎（日本学術振興会）

「ダム開発の『合理性』をめぐる論争の精神分析的評価」

石井敦（東北大学）、大久保彩子（東京大学）

「科学アセスメントの学習プロセス — 経路依存性、パラダイム転換、境界構築」

二宮咲子（東京大学／（株）環境管理センター）

「環境問題における科学知とローカル知とのすれ違いから順応的ガバナンスにむけた人文社会科学的环境モニタリングの提案 — 釧路湿原東部の湖沼流域を事例として」

E-1-2【GS】科学技術コミュニケーションⅡ： 問題の所在と課題

座長： 白楽ロックビル（お茶の水女子大学）

朝比奈泰子（東京大学）堀 里子（東京大学）、澤田康文（東京大学）

「健康食品の安全確保に向けた問題点抽出のための薬剤師、消費者を対象とした健康食品ワークショップの実践」

水沢光（東京大学）、金凡性（東京大学）

「科学コミュニケーション教育の現状と展望 — 東京大学・科学技術インタープリター養成プログラムの受講者調査から見えること」

上野伸子（東京大学）、藤垣裕子（東京大学）

「科学の専門主義とステークホルダーの社会的関心との相関 — 米国の魚介類摂食をめぐる論文上の論争を事例として」

昼休み 12:10 – 13:20 (理事会および評議会)

総会 13:20 – 14:10

柿内賢信記念賞研究助成金授与式 14:10 – 14:30

【第3セッション】 14:40 – 16:10

A-1-3 【WS】 学生・市民の分野別科学イメージ調査

オーガナイザ： 戸田山和久 (名古屋大学)

豊沢純子 (大阪教育大学)

「大学初年次学生の分野別科学イメージ調査の概要と結果」

唐沢かおり (東京大学)

「市民の分野別科学イメージ調査の概要と結果」

戸田山和久 (名古屋大学)

「分野別科学イメージ調査から何が言えるか」

B-1-3 【WS】 「原子力工学」が社会と向き合う時、「STS」には何ができるだろうか？ — 東京大学・原子力グローバル COE における試み

オーガナイザ： 神里達博 (東京大学)

コメンテータ： 八木絵香 (大阪大学)

木村 浩 (東京大学)

「原子力分野における社会論教育研究の概要と現況」

勝木知里 (東京大学)、寿楽浩太 (東京大学)

「原子力工学系研究者の問題認識の整理」

寿楽浩太 (東京大学)

『原子力社会論』教育プログラム構築に向けた教育モジュール開発構想」

C-1-3 【GS】 科学技術コミュニケーションⅢ： コミュニケーションの担い手

座長： 針谷順子 ((株) 編集工房 球)

松本安生 (神奈川大学)

「温暖化コミュニケーターとしての推進員制度の活用に関する研究」

仲谷美江 (大阪大学)、森 有紀子 (消費生活アドバイザー)

「生活の中にある科学技術問題」

林 武広 (広島大学)、佐藤和正 (近大附東広島中高)

「広島市科学技術市民カウンセラーによる市民対象の科学・科学技術普及活動の成果と課題」

D-1-3 【GS】 科学技術ガバナンス III : ガバナンスの知 part2

座長： 蔵田伸雄（北海道大学）

中野浩（東京大学）

「熊本水俣病事件をめぐる水産学研究の展開」

藤木 篤（神戸大学）

「アスベスト問題に見るリスクガバナンスと予防原則 — 因果関係と立証責任の観点から」

内海和夫（東京工業大学）、乾孝司（東京工業大学）、橋本泰一（東京工業大学）、村上浩司（奈良先端科学技術大学院大学）、石川正道（東京工業大学）

「社会課題とその解決に結びつく科学技術に関する有用知識の抽出」

E-1-3 【GS】 科学技術コミュニケーション IV : メディアの中の科学技術

座長： 調 麻佐志（東京農工大学）

朝山慎一郎（東北大学）、石井敦（東北大学）

「地球温暖化と科学 — 日本における IPCC の新聞報道の構造」

三瓶由紀（国立環境研究所）、青柳みどり（国立環境研究所）

「温暖化に関する科学的知見に関する新聞報道特性」

標葉隆馬（京都大学）

「日本における遺伝子組換え関連新聞記事の動向分析」

記念講演会 16:20 – 17:50

会 場： 大学教育実践センター 共通教育大講義室（ロ大講）

講演者： 鷺田清一（大阪大学総長）

演 題： 「21世紀の教養？」

懇親会 18:00 – 20:00

会場： カフェレストラン「宙（そら）」（豊中キャンパス 学生交流棟1階）

第2日 11月9日(日)

【第1セッション】 09:00 – 10:30

A-2-1【WS】 柏崎刈羽原子力発電所地震災害の政策的意味

オーガナイザ： 吉岡 斉（九州大学）

吉岡 斉（九州大学）

「原子力発電の安定供給特性と経済的リスク」

黒田光太郎（名古屋大学）

「原子力発電所の耐震安全性」

石橋克彦（神戸大学名誉教授）

「核施設の地震災害リスクについての基本的考え方」

B-2-1【GS】 科学技術ガバナンスⅣ： エネルギー技術ガバナンスⅠ

座長： 上田昌文（NPO 法人市民科学研究室）

篠田佳彦（東京工業大学）

「社会と原子力に関する意識調査（Ⅱ）」

鳥羽瀬 孝臣（NPO 科学技術倫理フォーラム）

「原子力発電の社会受容に関する考察」

尾形清一（立命館大学）

「再生可能エネルギーに関する技術システム導入過程のアクターネットワーク」

C-2-1【WS】 科学と法の接点～法廷における科学

オーガナイザ： 藤垣裕子（東京大学）

コメンテータ： 島村 健（神戸大学）

中村多美子（弁護士）

「司法と不確実下の科学 — 電磁波訴訟を通じて」

本堂 毅（東北大学）

「法廷の科学リテラシー — 科学者証人の体験から」

中島貴子（東京電機大学）

「戦後日本の食品関連訴訟における科学論争」

D-2-1【GS】 研究開発と市場社会Ⅰ

座長： 宗像慎太郎（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社）

宮崎正也（名古屋大学）

「企業の新製品発表と業界価値の構築 — レーザー・プリンタの事例」

本田康二郎（同志社大学）

「技術哲学とランドマーク商品論」

宮崎和英（福岡大学）

「庶民用の地下足袋がブリヂストン・タイヤを生んだ — 産学連携の嚆矢」

【第2セッション】 10:40 – 12:10

A-2-2 【GS】 科学技術コミュニケーションⅤ： 地域連携

座長： 平田光司（総合研究大学院大学）

小林俊哉（北陸先端科学技術大学院大学）

「地域社会と大学の連携を促進するサイエンスカフェ」

藤井哲之進（北海道大学）、朝野裕一（旭川医科大学）、定池祐季（北海道大学）、高田知哉（旭川工業高等専門学校）、佐藤祐介（北海道大学）

「サイエンス・カフェによる地域ネットワークの形成 — あさひかわサイエンス・カフェの実践から」

隈本邦彦（江戸川大学）

「津波のリスクを地域住民が正しく知るための手法の開発と評価」

B-2-2 【GS】 科学技術ガバナンスⅤ： エネルギー技術ガバナンスⅡ

座長： 塚原東吾（神戸大学）

寿楽浩太（東京大学）

「STS 分野における社会的意思決定論再考 — 技術特性に翻弄される発電施設立地プロセスをめぐって」

桜井 淳（物理学者）

「日本の原子力安全規制策定過程におけるガバナンスの欠如(Ⅱ) — 耐震安全審査について」
菅原慎悦（東京大学）、木村浩（東京大学）

「原子力規制ガバナンスにおける安全協定の意義及び課題」

C-2-2 【GS】 生命・医療

座長： 松原克志（常磐大学）

額賀淑郎（東京大学）

「米国の国家委員会におけるベルモント・レポート」

澤田康文（東京大学）、堀里子（東京大学）、大谷壽一（東京大学）

「『おまかせ医療』からの脱却を図る手段としての医薬品情報」

渡部麻衣子（東京大学）、洪賢秀（東京大学）、張 瓊方（東京大学）、武藤香織（東京大学）

「専門知の公共化 — 遺伝学的検査の価値評価をめぐる各国での公的議論の分析」

D-2-2 【GS】 研究開発と市場社会Ⅱ

座長： 井口春和（自然科学研究機構）

細野光章（東京工業大学）

「国立大学法人における産学連携活動 — 大学の商業化か、社会化か」

須田文明（農林水産政策研究所）

「フランスにおける作物育種研究の展開 — ハイブリッドから GMO を経て、生物多様性の分散的管理へ」

E-2-2 【GS】 技術倫理

座長： 杉原桂太（南山大学）

西村秀雄（金沢工業大学）

「動機づけを重視して双方向型 Web サイトを活用した技術者倫理教育の改善 — アクセス分析およびアンケート結果の分析を中心に」

柏葉武秀（北海道大学）

『内部告発』は研究者の義務なのか」

杉原桂太（南山大学）

「科学技術社会論による技術者倫理事例の分析 2」

【第3セッション】 13:20 – 14:50

A-2-3 【WS】 STS 研究と政策研究（第3回） ※ 13:20 – 15:20

オーガナイザ： 田原敬一郎（財団法人未来工学研究所）

コメンテータ： 高橋祐一郎（農林水産政策研究所）

神里達博（東京大学）

「STS 研究者はいかなる時に社会から『召喚』されるのか—個人的体験から」

吉澤剛（東京大学）

「科学技術基本計画における知識の利用と専門家としての政策研究者の役割」

中川尚志（文部科学省）

「政策形成過程における STS 研究及び政策研究の活用と行政側の意識」

田原敬一郎（財団法人未来工学研究所）

「STS 研究と政策研究の協働に向けた提案」

B-2-3 【GS】 科学技術コミュニケーション VI： 科学技術イメージ

座長： 藤垣裕子（東京大学）

伊藤京子（大阪大学）、日比野愛子（京都大学）

「子どもを対象としたコミュニケーションロボットの機能およびロボットイメージに関する調査」

室井かおり（京都大学）

「新聞記事中における生命科学の取り扱われ方の解析 — 「ゲノム」キーワードを通して」

中谷内一也（帝塚山大学）

「日本人の科学技術への不安」

C-2-3 【GS】 科学技術ガバナンス VI： 合意形成・意思決定

座長： 塚原修一（国立教育政策研究所）

永田素彦（京都大学）、大川智船（京都大学）

「専門家を活用したシナリオワークショップ型住民会議の設計と実施（1）」

大川智船（京都大学）、永田素彦（京都大学）

「専門家を活用したシナリオワークショップ型住民会議の設計と実施（2）」

横田耕祐（神戸学院大学）「コンセンサス会議の役割 — ゲーム理論的考察」

D-2-3 【GS】 科学論・技術論再考

座長： 奥田 栄（人間環境大学）

木原英逸（国士舘大学）

『社会技術』への偏向 — 1990年代後半以降の日本における新自由主義と STS」

古谷紳太郎（東京工業大学）

「科学論・技術論におけるモデルについての研究」

植木哲也（苫小牧駒澤大学）

『特許』を哲学する」

E-2-3 【GS】 科学技術コミュニケーション VII： 手法と教材

座長： 宮崎和英（福岡大学）

齋藤芳子（名古屋大学）、戸田山和久（名古屋大学）

「科学コミュニケーションハンドブックの傾向分析」

青柳みどり（国立環境研究所）

「フォーカス・グループ・インタビューを応用したコミュニケーション・プログラムの試み」

本間善夫（県立新潟女子短期大学）

「科学コミュニケーションにおける Web2.0 の活用事例」

【第4セッション】 15:00 – 18:00

A-2-4 【WS】 市民と専門家の熟議と協働 ※ 15:30 – 17:30

オーガナイザ： 平川秀幸（大阪大学）

平川秀幸（大阪大学）

「市民と専門家の熟議と協働 — その手法と組織基盤の開発」

標葉隆馬（京都大学）

「生命科学分野研究者における科学コミュニケーションに対する意識調査」

八木絵香（大阪大学）

「中関心層を対象とした熟議型コミュニケーション手法の開発」

中川智絵（京都大学）

「大阪大学サイエンスショップの取り組みについて」

高尾正樹（大阪大学）

「市民と専門家の熟議と協働のためのインタフェイス組織運営基盤構築にむけて」

福島杏子（社会技術研究開発センター）

「研究開発と助成機関の新しい関係性」

B-2-4 【WS】 循環型社会の形成に向けての市民の主体的参加 — ハイブリッド型会議の活用の可能性と限界、そして今後の展望—

オーガナイザ： 柳下正治（上智大学）

コメンテータ： 蔵田伸雄（北海道大学）

柳下正治（上智大学）

「市民参加による政策提案における参加型会議手法の適用 — 名古屋におけるハイブリッド型会議の実践経験から」

杉浦淳吉（愛知教育大学）

「しみん提案から『なごや環境大学』での循環型社会推進への活動の発展」

前田洋枝（東海学園大学）

「ハイブリッド型会議への参加と市民のエンパワーメント効果分析」

松岡夏子（神戸大学）

「循環型社会形成にむけた協働と専門家の役割 — 東京都町田市を事例に」

C-2-4 【WS】技術者階層の社会的自立への課題

オーガナイザ： 比屋根 均（日本技術士会・ET の会）

コメンテータ： 戸田山和久（名古屋大学）

北村正晴（東北大学）

「技術倫理実践の射程を考える」

打田憲生（ET の会）

「日本の専門職技術者の現状について」

斉藤了文（関西大学）

「プロフェッショナル技術者が果たすべき社会的役割」

伊勢田哲治（京都大学）

「倫理学の視点から見た技術者の自立」

D-2-4 【WS】ナノテクノロジーと市民的価値 — 3つの参加型手法「ナノトライ」の試み

※15:30 - 17:30

オーガナイザ： 高橋祐一郎（農林水産政策研究所）

三上直之（北海道大学）、杉山滋郎（北海道大学）、山口富子（国際基督教大学）、高橋祐一郎（農林水産政策研究所）、若松征男（東京電機大学）、藤田康元（東京電機大学）、立川雅司（茨城大学）、河野恵伸（農林水産省）、杉山滋（食品総合研究所）、山中典子（動物衛生研究所）

『「ナノトライ」の実践結果』

山口富子（国際基督教大学）

『「未来の食への注文」に見られる市民的価値』

藤田康元（東京電機大学）

「ナノトライを評価する—『関与的エバリュエーター』の立場から」

E-2-4 【WS】格差社会の形成と批判 — 労働経済論と科学技術社会論の交流

オーガナイザ： 後藤邦夫（NPO 法人学術研究ネット）

コメンテータ： 桑原雅子（NPO 法人学術研究ネット）、高橋さきの（翻訳家、東京農工大学講師）

後藤邦夫（NPO 法人学術研究ネット）

「科学技術社会論と格差社会問題」

熊沢 誠（甲南大学名誉教授）

「格差社会の形成と批判—労働経済論と科学技術社会論の交流」

塩満典子（お茶の水女子大学）

「科学技術系専門職の労働環境 — ワーク・ライフ・バランスを目指して」